

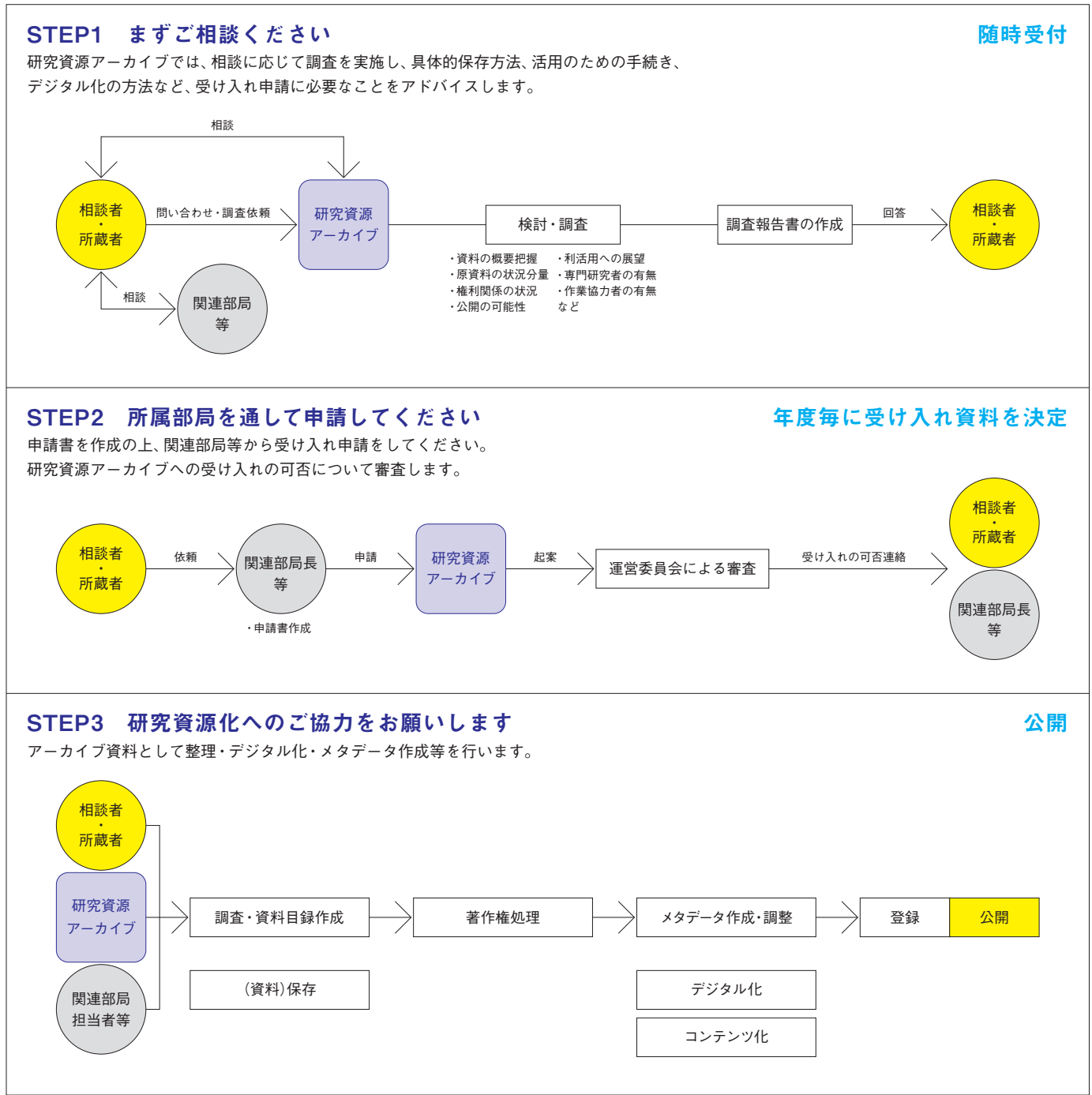
資料の受け入れについて

研究資源アーカイブでの資料保存をご希望の方は、まず「お問い合わせ」へご連絡ください。京都大学の教育研究の過程において生み出された資料類であることが原則です。

アーカイブ資料を資料の所蔵者・作成者だけでなく誰もが等しく利用できるよう、資料の所蔵者・作成者の皆様には、権利関係の処理やメタデータの作成などについてもご協力をお願いしています。

研究資源アーカイブにおける資料保存の手続き

研究資源アーカイブで資料を保存・公開するには、3つのステップがあります。



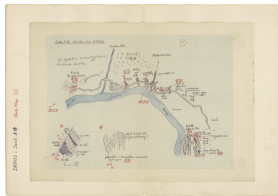
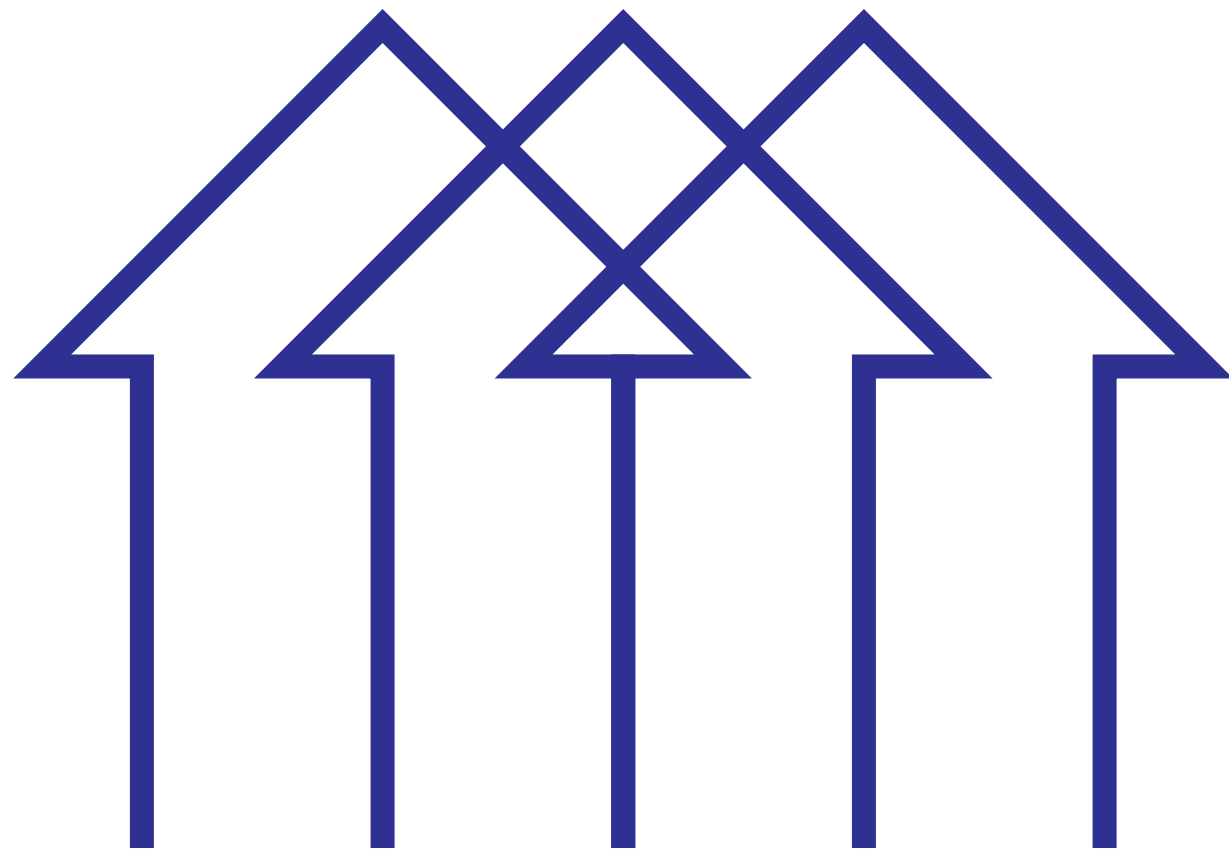
お問い合わせ 京都大学研究資源アーカイブ
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館
TEL：075-753-3272 FAX：075-753-3277 E-MAIL：kurra-info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp
URL：http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/



京都大学研究資源アーカイブ

Research Resource Archive, Kyoto University

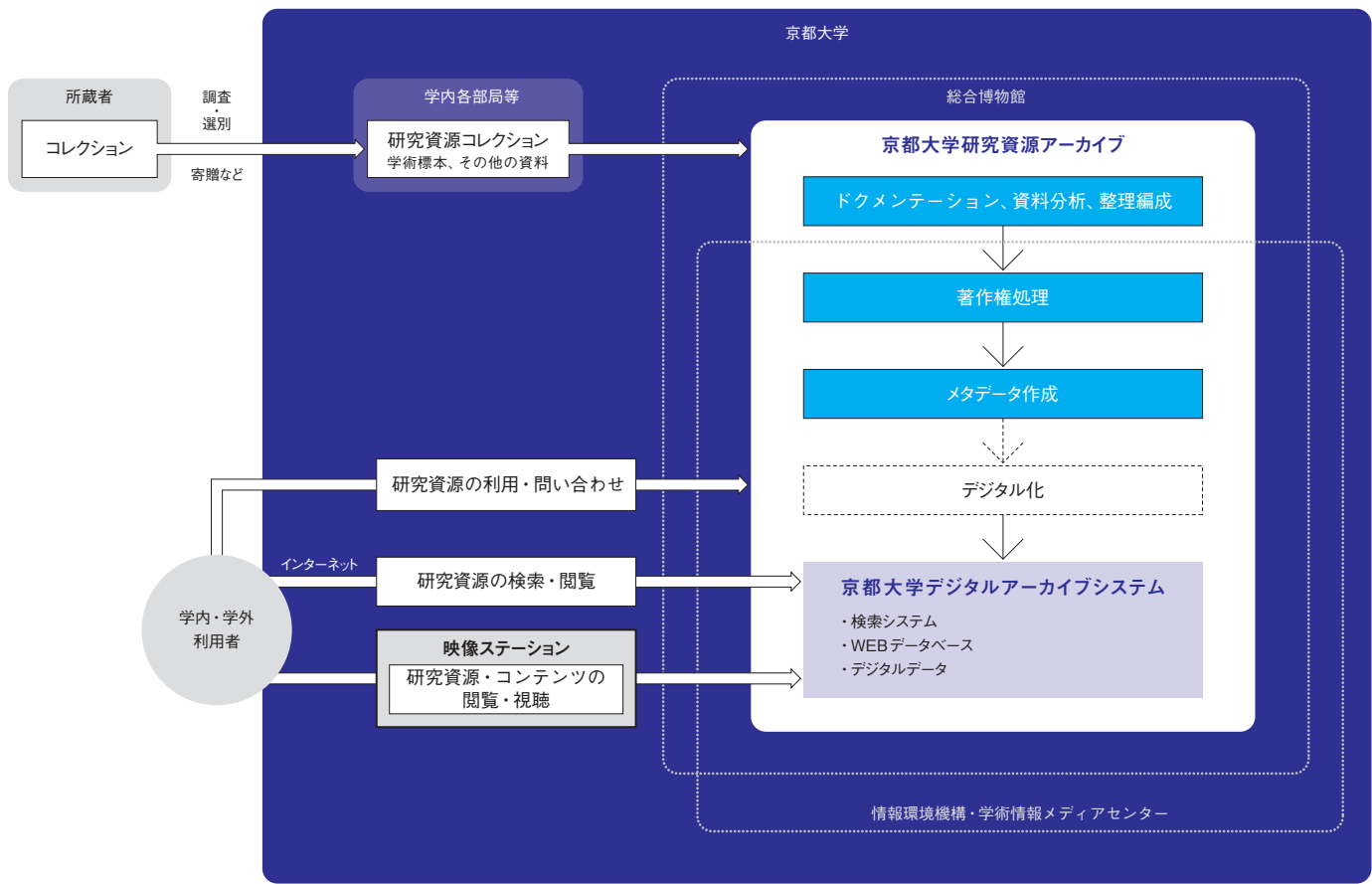
知の資源で未来をつくる



京都大学研究資源アーカイブとは

京都大学研究資源アーカイブは、京都大学における教育研究の過程において収集・作成されたさまざまな資料類を体系的に収集・保存し、新たな教育研究の資源(研究資源)として運用することを目的としてつくられました。対象とする資料は図書や標本類とは異なり、写真・映像・録音、フィールドノート、研究会の記録、講義ノート、論文原稿などの一次資料であるところが特色です。これら一次資料は調査を経たのちにデジタルアーカイブシステムに登録され、研究資源として活用できるよう整備されます。また研究資源をもとに京都大学の教育研究活動を紹介する映像等の作成・公開も行っています。

京都大学全体の教育研究に関わる重要な活動である研究資源アーカイブは、理事を委員長とする全学的に組織された運営委員会により活動方針が決定されます。その活動方針にもとづき、総合博物館が運営責任部局、学術情報メディアセンターが連携部局として運営実務を担当し、情報環境機構が支援を行います。



用語 【アーカイブ】資料・情報を記録として永久保存すること、永久保存される記録、また、そのための施設・機関を指します。

【コレクション】もともと資料を作成・収集し保管してきた個人や組織・団体(そうした個人や組織等を「出所」と言います)による資料のまとまりのことです。

【コンテンツ】主として研究資源を利用した映像、音響等の作品を指し、デジタルデータやもとなった研究資源そのものも含む総称としても用いられます。

【デジタルコレクション】あるコレクションをすべてデジタル化したものや、一部をデジタル化したものを基本とします。また、複数の出所にわたってある主題により集められた仮想的収集資料であることもあります。

【デジタルデータ】デジタル化したデータで、大きく2つに分けられます。資料の内容をデジタル化したデータ(デジタルコンテンツ、情報オブジェクト)と、資料のためのデータやデータのためのデータ(記述データ、メタデータ)です。

【メタデータ】データのためのデータ、データに関するデータ、のことです。資料目録は、それがデジタル化されているか否かにかかわらず、典型的メタデータです。

研究資源アーカイブを支えるシステムと施設

教育研究の過程で生み出された様々な資料は、記録として保存できるよう調査され、選別を経てデジタル化されます。このデジタルデータを京都大学デジタルアーカイブシステムへ登録し、メタデータを付加してデジタルコレクションを構築します。

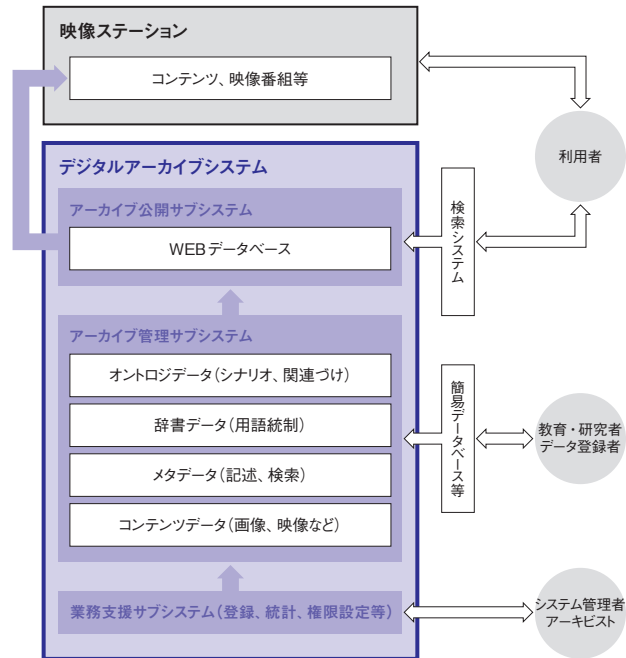
京都大学デジタルアーカイブシステム(KUDAS)

本システムは、研究資源およびコンテンツを管理するための基盤ツールです。研究資源やコンテンツの収集・登録・保存をつかさどるメタデータの制御、デジタルデータの蓄積、公開可能な研究資源の利用提供などの作業を支援します。本システムを通して資料を検索しデジタル化された内容を利用できます。

アーカイブ管理サブシステム:メタデータ、コンテンツデータの登録、データの蓄積、アーカイブ公開システムへのデータの提供を行います。

アーカイブ公開サブシステム:蓄積されたメタデータ、コンテンツデータをWeb上で公開します。

業務支援サブシステム:本システムの稼働や運用を支援します。



京都大学研究資源アーカイブシステム概念図

映像ステーション(AVS)

映像ステーションは研究資源アーカイブの収蔵資料を公開する場です。様々な研究資源のデジタル情報や、それに基づいて作成された映像コンテンツを個人閲覧用ブースでご覧いただけます。また、本学教育研究活動から生み出された映像資料を映写コーナーで常時上映しています。

研究資源アーカイブの活動

研究資源アーカイブにおける資料収集・保存の活動は、これまでアーカイブ資料管理の世界で確立してきた出所原則や原秩序尊重原則などの基本原則にしたがって進められます。公開にあたっては、デジタルアーカイブシステムでの閲覧、教材・広報等の利用のため、検索システムを用いて、よりわかりやすいかたちでの提供に努めています。

収集

収集は、大きく調査、選別、登録に分かれます。資料の所在を調査し、現状を記録し、所蔵者・関係者から情報を得て選別し、資料のまとまりをコレクションとして登録します。

保存

保存には、資料の情報を残す側面と、資料の実物実体を保護する側面の二つがあります。資料の一覧表や必要な説明などのメタデータを作成し、実物やデータの実体を保存します。

活用

資料は検索・閲覧されるだけでなく、教材等のコンテンツ作成や、資料を理解するための展示等へも活用されます。また、アーカイブという活動自体を伝え、考えていくためのワークショップ、シンポジウム等も行っています。



京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション (稲盛財団記念館 1 階)

